

日 時 令和元年 8 月 2 日（金）

場 所 近畿中部防衛局：大阪府中央区大手前 4-1-67
大阪合同庁舎第 2 号館

近畿地方整備局：大阪府中央区大手前 1-5-44
大阪合同庁舎第 1 号館

京都府建設交通部：京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

要望先 近畿中部防衛局 島 眞哉 局長

近畿地方整備局 植田 雅俊 道路部長

京都府建設交通部 富山 英範 部長

1、要請・陳情の目的

①山陰近畿自動車道の早期全線事業化に向けて、近畿地方整備局並びに京都府に対して要望活動を行う。

②緊急輸送道路に指定されている国道、府道の整備事業について事業主体である京都府並びに、その財政支援を行っている防衛省に対して感謝を述べ、更なる事業推進を要望する。

2、要請・陳情活動の内容

近畿中部防衛局へは、米軍経ヶ岬通信所の設置に伴い、本市の厳しい財政状況の中、再編交付金、民生安定施設整備事業や障害防止事業等の交付額として約 3 6 億円が、農林水産業、教育、医療、防災等の事業費に活用させて頂いている事に感謝を伝えた。

また、米軍基地関連道路事業に対しては、緊急輸送道路に指定されている多くの国道や府道の新設改良事業を行って頂いていることにも触れ、現在 4 カ所のバイパス道路の事業継続と、新たに新規事業が決定し、約 7 7 億円の事業予

算を受けている事に触れた。

本市の懸案事項であるインフラ整備が遅れていることから、これらの防衛省の予算は住民の福祉の増進に大きく寄与している旨を、近畿中部防衛局島眞哉局長に対し感謝を述べた。

その後は近畿地方整備局、植田雅俊道路部長へ要望活動を行い、大宮峰山間の早期完成の実現と、その延伸となる峰山ICから網野ICまでの、国による早期事業化、更には地元希望ルート帯に配慮したルート決定に向けた本調査の実現を申し入れた。

さらにその後京都府庁へ行き、西脇知事宛の要望書を建設交通部富山英範部長に提出をした。特に、防災機能の向上を図るため、緊急輸送道路の安心・安全な通行環境の確保について申入れをした。



3、所 見

今回初めて要望活動先として、防衛省近畿中部防衛局へ行ったが、その背景としては、本市の緊急輸送道路に指定をされている国・府道のインフラ整備が遅れているという長年の懸案事項であった。しかし、米軍基地に関連した道路事業として、5つのバイパス事業が総額77億円で計画実施されている。道路

は市民にとって、日常生活だけではなく、地域産業の振興、救急医療や災害発生の緊急輸送道路としても重要な社会基盤であることは言うまでもない。現在、こうした工事が進むことで地元にとっては期待と喜びを感じている。

この他にも防衛省予算活用事業で多くの交付金を受け、住民の住環境の整備に約36億円の事業費が当てられ、実行されてきている。米軍基地を受け入れたことで住民の福祉の向上に繋がっていることは、十分に理解できるものと考ええる。

中でも府道網野岩滝線の外村バイパスの新規事業化については、北部医療センターへ結ぶ道路であり、医療拠点を結ぶ命のネットワーク網の確保につながることは地元住民にとって大変喜ばしい事でもあるが、安心安全の確保にも繋がるものと考ええる。北部医療圏は医師の偏在があるこの地域であるからこそ、主要道路の整備は重要である。今後も、米軍基地に対する理解を広く市民に得ながら、関連事業の推進に努力をして行かなければならないと感じた。



山陰近畿自動車道の更なる延伸に向けての活動は、その道路がもたらすストック効果をより多くの地元住民も一緒になって生み出していくことが大切であると感じた。本市に於いては山陰近畿自動車道のルート検討に向けて3,200人へアンケート調査を行い、約50%の回収率で地元希望ルート帯(案)を作成した。着実に本市でも早期実現に向けた機運の高まりを感じている。地元希望ルートに沿った形で計画がなされることは、地域産業の振興や観光振興に

繋がり、地元住民が早期実現に向けた自発的な動きとなっていくと考える。また、兵庫県側の整備計画も定まってきており、着実に前に進んできているように感じる。府県との連携をより強固にしていく事が、横断的に日本海側の地域経済の発展に繋がって行くと考ええる。

日本国内の道路整備率は、世界から見ればまだまだ遅れをとっている。地方創生と云われ地方自治体が求められる活性化となる為には公共インフラの整備は欠かせない。地方が豊かになる為にはアクセシビリティの格差を解消していかなければならない。

そのためにこの山陰近畿自動車道の早期実現することが、ストック効果を生み出し、隣接する市町の地域を豊かにし、日本海側の地域経済が発展していくことが、日本全体の国益に繋がると考える。これからの時代を担う若者が住みやすい環境整備に努めることが、今の時代を生きる大人たちの指名であると感じる。